
あの、そこ私の席なのですが

道案内

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの、そこ私の席なのですが

【Nコード】

N9779Y

【作者名】

道案内

【あらすじ】

偶然、自分の席に座るクラスメイトを目撃してしまった加奈。その日以降、彼の数々の行為に振り回される羽目に。 無口美形ワンコに溺愛される平凡少女のお話です

あの、そこ私の席なのですが

「……………」

慌ただしく教室の扉を開けた桑原加奈は、目の前の光景にそのままの姿勢で固まった。

三時間目と四時間目の間の休み時間。次は移動教室の為、人はほとんど残っていないかった。加奈も途中でノートを間違えた事に気づき、あわてて引き返してきたのだ。

教室の中に残っていたのは二人の男子生徒。

「あっちゃー……」

此方を見て、気まずげに顔を引きつらせるクラスメイトの松本君と、……気のせいではなければ加奈の席に座り、加奈の机にしがみついているもう一人。

「……………」

窓際の後ろから二番目、そこは間違いなく加奈の席だ。

此方に後頭部を向けている人物の頭は、上下に激しく揺れている。頬を机にスリスリと擦りつけて……擦り、付け……。

「荒川、荒川」

立ち尽くす加奈に背を向けて、誰かさんの肩を揺する松本君……
……って荒川君!?

「……なんだ、邪魔するな」

顔も上げず、不機嫌そうに答える荒川君らしき人……というか邪魔ってなんですか。

「いやいや、ほら、見られちゃったから」

「だから邪魔す、……なに？」

のっそりと松本君を見上げた荒川君の視線が、扉の前で立ち尽くす加奈の方へと向き、止まった。

切れ長の一重の目を見開き、微動だにしない荒川君らしき人、……いや荒川君だね、うん。何してるのさ、荒川君。人の席で。その両手は未だに加奈の机をしかと握りしめたままだ。

「「「……」」」

三人の間に、とてつもなく重い空気が流れる。その静寂を破り松本君が口を開いた。

「あー桑原さん、どしたの？」

「……それはこっちの台詞なんだけど」

「……だよねーあは、は、はは」

松本君のわざとらしい笑いが響く中、荒川君は此方をじっと見つめたままで動かない。

その視線の激しさに、加奈の方はとても荒川君を見返せない。

「あーやばいよー次始まっちゃうよー」

白々しさも全開の口調で松本君は言い、荒川君の腕を掴むと、ぐいぐい引きずるように加奈の横を通り過ぎ

「桑原さんも急いで急いで、遅れるよー」

そのままズルズルと荒川君を連れ、出て行ってしまった。その間も荒川君の熱視線は外れないままで。

「……………なんだったの」

どつと疲れを感じながらも、ノートを取り出すために机に向かう。……一応、我が机に何かされてないかもチェックするためにも。

意味が分からない

結局、次の授業へは少し遅れてしまった。いや、だってほら、異常がないか念入りに調べてたら……ねえ。

すみませんと頭を下げた時も、とある方向から重い視線を感じるような……気のせいだね。

教室での席がそのまま反映されているので、窓際後ろから二番目の席へと腰を下ろす。

「えーそれでは、教科書23ページの……」

教師の言うままにページを開くも、内容なんてちつとも頭に入っていない。

思い浮かぶのは先程の出来事ばかりで。……結局あの二人、というか荒川君は私の机で何をしてたんだろう。何やら机に頬擦りでもしてたように見えたけど……いやいや、そんな馬鹿な。

あの二人、タイプは違うものの、二人揃って超モテ男だし。

華やか美形の松本啓介君。

ふわふわの茶色い癖っ毛に、甘い垂れ目の整った顔立ち。巧みな話術で距離を縮め、常に数人の女の子と付き合っているという噂。

……さっきみたいにぎこちない松本君なんて初めて見た気がする。常にある余裕オーラもなんか消えかけてた感じだし……んー？

そして問題のもう一人、冷徹美形の荒川祐也君。

常に無表情なその顔は凄まじく整っていて、一切の隙がない。癖のない黒髪に切長の瞳。三秒目が合ったら、どんな女でも惚れさせるという逸話さえある。

最も、告白してきた女の子は全て一刀両断してるらしいんだけど…… っってイタイイタイイタイ。何だか痛い気がする。体の右側が凄まじく痛い。

ちなみに

私、窓際後ろから二番目。

荒川君、廊下側の一番後ろ。

おまけで松本君、私と同じ窓際の一の前。

まさかと思いつつ、チラリンと右斜め後ろを向く…… ええええっ！

め、目、目が合った……！！

一番奥の人と（荒川君なんだけど）合っちゃったよ！！

「……………」

確認。

……ええええつ。私、何かしましたでしょうか。

うろたえたら負けだ

「くであるからして、このようにく」

あと10分、あと10分。

チクチクくる視線に耐えること30分。心なしかお腹も痛くなってきた気がする。

「えく次に、問2と問3を」

あーもー早く終わっ

「荒川、桑原。前に出て解いてみる」

ぎよへえええっつ、なんですとっ！？わ、私ですか。顔が引きつるのが分かる。

「なーんか集中してないからな、お前ら。」

化学担当の山下先生が、半笑いで言ってくる。

「ほらほら、早く前に出ろー」

うつつ、ツイてない。泣く泣くノートを片手に立ち上がる。ガタツともう一人も立ち上がる音も聞こえる。こうなったら、さっさと終わらせて席に戻ろう。幸いなことに答えは分かっているし。

周りを見ないように足早に黒板へと向かう、松本君の傍を通る時はちょびつと息をつめてしまったけど。

えーと、チヨークチヨーク……

……え？

ピキッと教室の空気が固まったような気がする。というのも全て、私のすぐ横にいらっしゃる方のせいなのですが。

～回想～

えーと、チヨークチヨーク。あ、あった……………え？

私がチヨークを掴んで三秒後、私の手に一回り大きな手が重なりまして。横を見やれば荒川君。

あ、なるほど。荒川君もチヨークを探してたんですね。にしては三秒のズレがあったような気もしますが。では、コレは譲りますよ。私は他のを、他のを……

～回想終了～

……………あの、手を放してください。

遠慮します

「……………あー、荒川？どした？」

静まり返った教室に、山下先生の声がむなしく響く。

先生っ、もっと言ってやってくださいっ！明らかにこの方、おかしいんです！

背中を冷たい汗が伝い落ちる。う、動けない。これから私にどうしろと…………っ。

俯いた視線の先に、私の手をがっしりと掴んでいる手が映る。ちょっと力を入れてみるも全く動かない。チョコレートが欲しいなら譲りますからっ、まず手を離してくださいいいいっ。

ぐっぐつと静かな攻防が繰り広げられる中、ガタツと誰かが椅子から立ち上がる音がした。縋るような思いでそちらに目をやる。

「荒川、荒川」

どうどう、とまるで野生の大型動物をなだめる様に、松本君が歩み寄ってきていた。

「あーごめんね、桑原さん。どうもコイツさっきので振りきっちゃったみたいで」

苦笑しながら、何やら訳の分からない事を言う松本君。フリキッタって何ですか？

「ほら荒川、お前もいい加減にしとけよ、授業中だぞ？」

ポンポンと荒川君の肩を叩く松本君。それに合わせて恐る恐る荒川君へと視線を向けると、私より20センチは高いであろう顔と目が合う。

「「……」」

気のせいでしょうか、握られた手に更に力が入ったような……。

「あー……お前ら、とりあえず席戻れ」

山下先生の疲れたようなような声に、ぎこちなく、握ったまんまだったチョークを放す。

えーっと席に戻れたそうですよ、荒川君。って松本君、さつさと戻らないでください。この人を置いていかないでください。

不意にグイッと手を引かれる。え、え、と混乱状態で、荒川君に手を引かれるまま歩きだす。

ひいいいつ、し、視線が、視線が刺さる。あえて見ないふりをしていましたけど、クラス中の視線がグサグサ刺さってるっ。いつそ気を失いたくなる中、自分の席へとたどり着く。

……あ、荒川君の席はこの列じゃないんですけど、なんですか、わざわざ連れてきてくれたんですか手を繋いで……うつつ。

あ、はい座ります。椅子を引いてくれなくても座りますから。荒川君もどうぞ自分の席に戻ってください。ってなんですか！？なぜ手を握っているのとは逆の手で頭を、頭を撫でるのですか……？

そのまま、クラスメイトがガン見する中、チャイムが鳴るまで撫で続けられた。

……席に戻ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9779y/>

あの、そこ私の席なのですが

2011年11月30日20時49分発行